

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300709		
法人名	有限会社 愛宕福祉サービス		
事業所名	グループホーム 愛宕荘	ユニット名	1F
所在地	宮崎県延岡市古城町4丁目634番地3		
自己評価作成日	平成24年9月24日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_unei=true&JigyosyoCd=4570300709-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく挨拶と笑顔で、気配り・目配り・心配りをモットーにしている。また、入居者の方の訴えは、すべて受け入れている。環境的にも自然がいっぱいで、四季折々の行事や食事を楽しんで頂いている。いつも家庭的な雰囲気作りを心掛け、出来る事はお手伝いをお願いしている。
 ①認知症があっても舞台上に立って歌ったり踊ったりすることが出来る事を皆さんに理解を深めて頂く為、「福祉歌と踊りの祭典」(本年度で9年目)を行っています。入居者の皆様、姉妹園のあたご幼保園の園児、一般の方150名ほどの参加があり、交流を深めています。②毎月の荘だより(日常生活、行事等のスナップ写真)の発行をし、ご家族に発送しています。また、遠方に住んでいる子供さんにも送付しています(10年間継続・カラー)。③毎朝、入浴に関係なく、全員の陰部清拭を行っています。④自家製のヨーグルト(9年間継続)の提供をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に、元気で楽しい生活を提供しようとする姿勢が感じられる。認知症になっても隠す必要はないという理念を持ち、今までに培った趣味や特技を発表する場として、福祉ふれあい「歌と踊りの祭典」の場を提供し、利用者の生きがいの源になっている。また、お大師祭りに出かけるなど、積極的に外部との交流に努めている。日々のケアでは、体調管理の一環として、毎朝局部清拭を行い、衛生面を強化している。ホームは、看取りを経験しており、希望に応じて話し合いながら、終末期をサポートする体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	文章化して掲示している。 ケアの在り方を掲示している。 職員会、勉強会時に、理念の唱和をしている。		職員の声掛けや態度、気持ちが利用者に影響することを理解して、日常生活のどんなケアであっても、理念に基づいた業務につながるよう、常に話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に入会し、区の情報を得ている。 夏祭りには、地域の方が大勢参加して下さっている。 区の清掃活動への参加を検討している。		行事に招待したりするイベントだけでなく、日ごろから、「ご近所つきあい」としての関係を心掛けている。地域貢献という意味合いを含め、緊急時避難場所を提供できるよう、整備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が地域の研修会に参加し、認知症についての相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、その結果を職員会議で報告し、話し合いをしている。外部の方の意見を聞く事で、参考になる事も多い。		意見が出にくい時もあるが、避難ルートの改善を指摘されたり、地域の方の経験や家族の感想などから、問題点が解決できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と密に連絡を取り合っている。介護保険や他の分からない事があれば、その都度、問い合わせを行っている。		計画作成担当者が窓口となり、積極的に問い合わせや相談をしている。「愛宕荘だより」を渡し、日ごろの取組などを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		危険を考慮し、日常的に施錠が行われているが、目の届くときは解放するなどの取組を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。拒否せず、すべて受容している。月1回の職員会議で、常に言葉使い、声のトーンにも圧迫感を感じないように話し合いをし、心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者との関係は良い。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を十分説明し、理解、納得してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の声に耳を傾け、不安、訴えを聞きとり、解決している。荘だよりに理事長の携帯番号を知らせ、相談を受け付けている。窓口意見箱を設置している。		積極的に日常報告を行って、家族からの意見や希望を聞きやすい関係を作るよう努力している。出された意見は書面で残し、改善点を話し合い、家族へフィードバックしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会にて意見を出し合っている。申し送り簿、気づきノートを作成し、全職員に漏れなく、伝達できるようにし、サインで確認をしている。		会議の中で、全員が発表する時間を設けるようにして、意見や提案を出しやすい環境を作っている。また、改善点の伝達が行なわれているか、確認できるシステムがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	よりよい介護ができるように配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるように、勤務体制に配慮している。資格取得にも、勤務しながらできるように、配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加。月1回、九州保健福祉大学で行われる認知症の勉強会に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時に相談を受け、困っている事、不安な事、求めている事等、家族から聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所状況の報告等を行い、家族に安心してもらえるように努めている。荘に入所して良かったと思って貰えるような環境作りに、努めている。面会時に状況報告を行い、変化があった時は、その都度、報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人をよく観察し、家族からの情報も得ながら行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折、洗濯物干し・畳み等、出来る事を一緒にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話しやすい雰囲気作りを行い、職員とも話し合いながら支えてくようしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば対応している。 家族が協力し、対応してくれている。	定期的に散髪屋の来訪があるが、パーマをかけたいという希望のある方には、利用していた美容院を訪問するようにしている。また、手紙のやり取りを支援することもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が目配りを行い、仲間外れや居室にこもらないように気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、サービスが必要な時は相談に乗り、病院等の紹介も行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望があった時は、本人や意向に沿って行っている。進行のある方に対し、先方から来荘して頂いている。 馴染みの理・美容室へ出かけている。		日々を支え合う生活を通して、ありのままを受け入れるようにしている。徘徊をしている時など、どんな気持ちなのかを感じるために、寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴を書いてもらい、その人なりを理解するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい個人個人に沿った1日の過ごし方を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会、勉強会でケアの在り方について話し合いをし、ノートへの記録を行っている。申し送り簿、気づきノートを作成し、全職員に漏れなく伝達できるようにしている。		担当制にしており、個々の職員から情報を収集し、ケアプランを立て、モニタリングが行われている。 ケアプランに沿った介護を実践するために、職員全員が、利用者のケアプランやモニタリング結果を周知し、確認する機会を設けることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録している。統一したケアが必要な時は、情報を共有し、行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援、病院、理容室への送迎、買い物などを行っている。地域からの講演依頼を受けて、認知症やグループホームについて、話しに出向く事もある。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、区長は、運営推進委員会に参加して下さっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、嘱託医の来診を受けている。希望する医療機関を受診している。	週1回の往診、希望する科の外来受診代行を行っている。家族が受診する場合は、日常の様子を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に、看護師1名・准看護師5名がいる。日中に、常時1名が勤務するような体制を取り、異常の早期発見に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、主治医、医療関係者と話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できている。 家族、医師、職員と繰り返し話し合いを行い、方針を共有している。家族希望があり、家族の協力が得られる時は、終末期のケアができるように準備している、	利用開始時に説明し、家族の希望や考えを確認している。看取りの希望のある場合は、積極的にかかわり、話し合いを重ねながら文書化することになっている。医療機関の協力も十分ある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、応急手当や初期対応に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員防災網を作成している。 近隣の方々にも協力得られるように、声かけを行っている。台風などの災害時は、夜勤者以外の職員が、宿泊待機している。懐中電灯、自家発電機、食品、飲料水の確保はできている。	火災時の避難誘導や水害時の緊急時避難のための場所を建設し、近隣住民にも提供する予定である。本年中に、住民を交えた避難訓練を計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを十分尊重している。		言葉づかいに気をつけるだけでなく、声のトーンや速さにも気を配り、年長者としての誇りを傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人なりの話かけを行い、理解できなくても拒否しないように、本人のペースに合わせた。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている(理・美容室の利用、化粧、アクセサリー等)。理・美容室が来荘し、散髪を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベントに合わせて料理の提供を行っている。位牌を持参されている方には、お彼岸の時にはおはぎを作り、お供えしている。利用者の誕生日には、希望の料理を提供するようにしている(巻きずし、ちらしずし、おはぎ、魚ずし等)。手伝いができる方は、野菜の皮むきや下ごしらえを手伝って頂いている。		季節感のある、野菜中心の手作りのものを出すように心がけている。起床時間など、それぞれの生活のペースに応じて、食べやすい時間に提供できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表をチェックし、食事、水分摂取のチェックを行っている。脱水症状の予防に努め、食欲低下時には、好みの食品を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、行っている。拒否があってもできない時もある。時間を置いて、タイミングを見計らって行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにて、排泄が行えるように支援している。		オムツ使用者に対しては、行動パターンを見極め、トイレ誘導を積極的に行っている。夜間は安眠確保を優先し、個人に合わせてオムツとトイレ誘導を組み合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表を利用し、排便状態のチェックを行っている。水分摂取量を考慮し、便秘時にはマッサージを行っている。必要時には下剤の服用もして頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて行っている(火・木・土)。入浴の順番は希望に沿って行っている。		拒否のある時でも、時間をずらして声掛けするなどして、入浴を促している。職員は2人対応で、安全にゆっくりと楽しんでもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく入眠剤は使用しないようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3回確認。一人ひとりの服薬を把握しており、職員が必ず口まで服薬介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベル低下の為、出来る事が少ない人もいるが、その人に合った支援をしている。出来る事(踊りやカラオケ)の趣味を生かして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、荘周辺の散歩を行っている。		近所へ散歩に出かけたり、買い物に行ったりするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1F	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		レベル低下があり、できない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		希望に沿って行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		季節の花、観葉植物等を置いている。行事毎の飾りつけを行っている。 毎月の特徴を生かした壁画を作成し、装飾している。共有空間の清潔保持に努めている。		台所が対面でないため、部屋が仕切られることがなく、食事の準備に参加しやすい環境が整えられている。ソファで仕切られたフロアは、歩行器の移動にも十分な広さが確保されている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		個人個人の会話は、困難である方は職員が気を使い、話しあえるようにしている。 それぞれの部屋に訪問し、話している入居者の方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		馴染みの品物を持ち込み、その人らしく生活できるようにしている。神棚、遺影等を置いている。希望がある時は、命日にお供物を提供し、大変喜ばれている。		家具の置き方やカーペットの使用などで、それぞれの部屋が、利用者らしい部屋になるよう配慮をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		その人なりをよく理解して、支援している。		